藤原氏
宇都宮流

佐田氏家系図

佐田家 始祖

佐田姓→
応永6年(1399)

親景

景重 — 景安 — 俊景 — 景有

盛景 — 因幡守
忠景 — 因幡守 (1444) — 文安元年
俊景 — 弾正忠
泰景 — 因幡守 — 大膳亮
武為 — 因幡守大膳亮 (朝景)
隆居 — 弾正忠 — 元和9年卒
鎮綱 — 元和元年九月細川家臣へ
統綱 (統景) — 寛永9年(1632)熊本細川家へ
武員
玄景 — 吉右衛門 — 安政元年卒

御許山領佐田荘五宇佐郡代 十三町歩外三カ所の地頭職

寛永九年（一六三二）惣領の熊本移住後も佐田に留まったのは、庶流重景の末裔。
重景の長子泰綱は内川野に在り、江戸期子孫は内川野村庄屋となる。
また、重景の二男鎮治は佐田に在り、江戸期その末裔は菩提寺円照寺の隣地に商店を構え、小倉屋と称し繁盛し、敷地内に二四棟の蔵があったという。

内川野 佐田家

重泰（重景） 平次郎
泰綱
光綱 — 天正6年11月日 向耳川にて戦死 25才
光友 — 内川野村 初代庄屋 — 父光綱戦死の時七才 寛永六年没
友久 — 勘左衛門 — 延宝元年十月十日没
友房 — 与三兵衛 — 元禄十二年卯正月一六日没
友治 — 市郎兵衛 — 元禄元年一月没
友重 — 市郎兵衛 — 延享3年卒

内川野佐田家継ぐ

熊本 佐田家

愛景 — 新兵衛 — 明治3年卒
淑景 — 又二郎 — 明治8年卒
遠景 — 長三郎
秀雄 — 広島中学校教諭

光綱 — （此の間九代略）

佐田 佐田家

分家

鎮治 — 弥太兵衛 — 天和2年卒
鎮宗 — 市左衛門 — 享保11年卒
鎮明 — 要右衛門 — 宝暦4年卒
鎮豊 — 弥惣兵衛 — 安永7年卒
鎮政 — 要右衛門 — 文政7年卒
鎮綱 — 要右衛門 — 嘉永3年卒 — 子2男子早世

小倉屋

鎮猛 — 治兵衛 — 享保9年卒
鎮冬 — 文造 — 宝暦11年卒
鎮儀 — 治左衛門 — 天明7年卒
鎮治 — 治良兵衛 — 文政3年卒
鎮信 — 英造

小倉屋本家

女子 — 礼津子
鎮信 — 英造 — 養子

分家

女子 — 麻佐子
鎮俊 — 新平 — 養子

女子 — 計比子
兼俊 — 弥八郎 — 養子 — 弘化4年卒

女子 — 雪子
鎮盛 — 彦造 — 養子

寛二郎
秀穂
秀彦
稔
忠彦

誰鎮 — 忠五良 — 養子
女子
女子 — 柳子
鎮久 — 良左ヱ門 — 養子
女子
鎮国 — 要右衛門 — 弘化2年卒
鎮房 — 要右衛門 — 平之進
鎮守
女子
鎮高 — 萬吉
兼鎮 — 忠造
鎮武 — 平太 — 養子
女子 — 蝶子

祖佐田平治 文久元年先
田一畝 明治元年宇
郎重泰為菩提於妙雲山勝光寺寄附
営 宮殿破傷造 都宮大明神

女子 ×5

小倉屋：幕末の頃三家に分れ百貨店式に手を広げ、また大地主としても40町歩の持ち主であった。（日用雑貨・食料品・呉服類・質屋・酒屋・製薬・・・商家）

家屋敷一切を譲る

佐田光多の代に養嗣子亮が戦死、小倉屋は絶える。

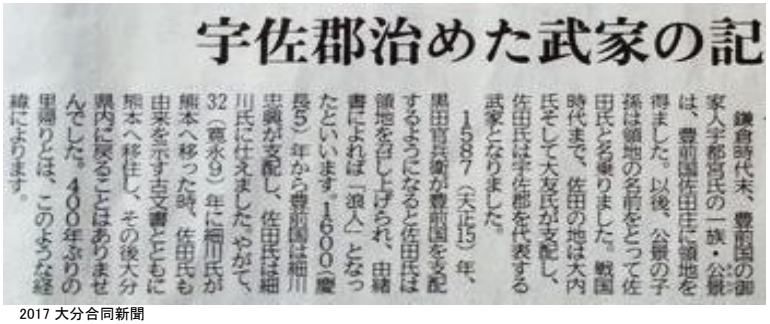
佐田 佐田家

分家

友道 — 常七 — 改名興兵衛 — 養子 — 山蔵賀来家へ
友政 — 勝右衛門 — 寛政3年没
友之 — 天保5年没
新助 — 明治19.年没
卯七 — 明治24年没
多弥太 — 昭和9年没
友昭 — 昭和19.年12月没

友良 — ⑥ — 為右衛門 — 明和8年卒
重友 — ⑦ — 為右衛門 — 寛政7年卒
友徳 — 為右衛門 — 文化8年卒
友貞 — ⑨ — 永三郎 — 万延元年没
友忠 — 佐田秀 — 慶応4年1月没
倉太 — 明治12.6.2 賀来ツナ養子 賀来倉太
愉吉 — 昭和19.年没
綾子 — 歌人賀来綾子 — 昭和二三年八月没二九

庄屋これまで
友道 — ⑩ — 改完太 昭和5年4月没 — 吉六小兵衛 — 養育
友雄 — 従五位勲四等 — 福井県立工業学校長
貞子



宇佐郡治めた武家の記

鎌倉時代末、豊前国の御家人宇都宮氏の一族・公景は、豊前国佐田庄に領地を得ました。以後、公景の子孫は領地の名前をとって佐田氏と名乗りました。戦国時代まで、佐田の地は大内氏そして大友氏が支配し、佐田氏は宇佐郡を代表する武家となりました。

1587（天正15）年、黒田官兵衛が豊前国を支配するようになると佐田氏は領地を召し上げられ、由緒書によれば「浪人」となったといいます。1600（慶長5）年から豊前国は細川忠興が支配し、佐田氏は細川氏に仕えましたが、やがて、32（寛永9）年に細川氏が熊本へ移った時、佐田氏も由来を示す古文書とともに熊本へ移住し、その後大分県内に戻ることはありませんでした。400年ぶりの里帰りとは、このような経緯によります。

2017 大分合同新聞

佐田家

勝光寺

天明3年12月

宝暦2年(1752)

佐田家墓

小烏宮～享禄2年(1529)宇都宮因幡守 寛永2年(1625)再興

灯籠～明和2年(1765)

佐田神社境内

佐田秀墓

文化十四年（一八一七）熊本から佐田英景が自家の系図・文書を携え、小倉屋鎮政を訪ねてきた。両人は大いに語り、同族たるを確かめあった。以後、両佐田家は交流を続け、佐田に宇都宮鎮房・長房の追慕碑を建てるなど、共に先祖の顕彰を行っている。この時、内川野村の佐田為右衛門は英景所持の古文書を写し取ったという。

令和2年1月 K. kaku